

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 3月 10日

事業所名 おひさまはうす

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		学年、お子さんのタイプ、ニーズ等が多岐にわたる為、使用できる部屋を最大限に活用している。	それでも手狭になってきたため、活動内容やエリアの再構造化を実施していく予定。
	2	職員の配置数は適切である		○		お子さんの利用時間については、非常勤の方を多く配置し、適切な人数で対応できるようにしている。	職員の盛職と初めの採用のタイミングが重なり、バタバタしてしまう場面が多かった。次年度は配置が安定するため、訓練室のレイアウトと合わせて再度調整していく予定。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		固定型の家具は避け、すぐに部屋のレイアウトを変更できるようにしている。	一人ひとりの特性に合わせて部屋のレイアウトを変更しているが、そうすると動線的に動きにくい部分もでてきたため、上記にも記載の通り、再構造化していきたい。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			業務日誌に、「次回までに用意するアイデア」を記入する欄を設け、全員が共通理解を持って計画できるようにしている。	今後も継続していきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今回の保護者の方のアンケートを踏まえて改善していきたい。保護者の方より、「記入式は大変なので違う形にしたほしい」とのご意見があったため、今回はgoogleフォームを活用した。ただそうするとコメントが極端に減り、YesNoの返答のみの方	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			毎年、HPでの公開と、保護者向けの掲示板にアンケート結果を貼りだしている。	今後も継続していきたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		相談支援事業所の方や、行政の方にもいつでもオープンしている。民生委員の方も見学に来ていただいた。	同じような職種、慣れた方になってきている一他業種からの視点も取り入れていく予定（近隣住民の方、民生委員の方など）
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			今年度は、自閉症をテーマに全3回の職員研修を実施した。	今後も保護者やご本人たちのニーズに答えられるような研修を実施していきたい（意思決定支援、就労に関すること等）
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			自閉症eサービスが開発した「評価キット」を活用している。	小さいお子さんが増えてきているため、また違った視点のアセスメントツールについて学ぶ必要がある。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		現在、Vineland-II 適応行動尺度 マニュアルを使用できよう学んでいる。	今後は事業所で実施できないにしても、医療機関などで取り組まれた発達検査など記録から状況を読み解くことができるような研修も実施していきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			大枠は管理職で組み立て、内容を職員全員で考えている。	かなり熱心に検討している分、勤務時間の超過が目立つ→時間内に検討できるような枠組み作りを実施したい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			一人ひとりの興味関心を確認し、そこから様々な活動に般化できるようにしている。	中には、「いつもと同じ様に過ごす」と固着がされている方もいるため、一対一課題で色々なことに取り組んでそこから広げていくなど教え方の工夫が必要に感じる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			特に余暇については毎日の余暇、習慣の余暇、月の余暇などに整理して取り組んでいる。	コロナ感染も落ち着いてきているため、地域活動や社会的な活動にもどんどん取り組んでいきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			かなり一人ひとりに合わせて活動を組み合わせている。	その分、どうしても準備に時間がかかったり、利用者や職員の動きが複雑化してきている→この部分の整理を次年度は検討していきたい。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			特に非常勤職員については、前回出勤時から状況が変わっていることもあるため、振り返りシートや口頭で情報伝達し、役割の確認をしている。	今後も継続していく。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			特に打ち合わせ時に確認した支援内容や役割について書面で確認しながら実施している。	今後も継続していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○		生活記録表や学習スタイル整理シートなど記録用紙の様式を工夫して活用している。	ただ、活動がかなり多様なため、かなり簡易な記録になっていて後から見直したときに、本人でない記入した意味がわからないことがある→書き方の研修を実施する予定。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○	○		基本的に事業所側の意見をの願うようになってから、保護者のみなさまのご協力もあり、頻繁に取り組んでいる内容の共有ができるようになった。	定期的なモニタリングについては、時期がずれてしまうこともあったため、連絡調整の仕方を整理していきたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			様々な療育に取り組むが、その時に何を優先して取り組んでいくのか、確認しながら進めている。	今後も継続していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			毎日の打ち合わせ、振り返りに児発管が参加し、状況確認して参加している。	今後も継続していく。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			地域柄、お互いの顔が良く見える関係性づくりを意識している。	保護者の方からも定期的に情報共有をしてくださり、大変助かっている。今後も良好な関係づくりを意識していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			法人の別事業として子育てに関連する委託部門があり、そこと連携をしながら一体的に支援している。	今後も継続していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			今年度から、事業所で作成したサポートブックを活用し、自事業所だけでなく、他事業所や保護者、学校とも共通の書式を通して情報提供できた。	今後も継続していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			自事業所からも、推奨したい研修について情報の依頼をしたり情報提供するなど連携して行った。	今後も引き続き参加し、連携を図っていききたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			利用児が自分自身のことをどのように理解しているかによってはあえて“交流すること”が逆効果になるお子さんもと感じている。ニーズに合わせて慎重に検討していきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			必ず毎回参加している。必要に応じて相談支援事業所や行政への意見の提案もしている。	今後も引き続き参加し、連携を図っていききたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡カードだけでなく、迎え時にできるだけ情報共有できるように努めている。	今後も継続していく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		お子さんの言動の背景を常に考えていもらい、一人ひとりの理解に合わせた支援の仕方を一緒に検討している。	今後も継続していく。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○		今年度途中から追加になったベースアップ加算についての説明が遅くなった方がいた。	今後は事前に変更が予想される場合、事前に状況を伝えたり、変更があった場合には丁寧な説明に努めたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			連絡手段だけでなく、迎え時にできるだけ情報共有できるように努めている。場合によっては計画相談員に情報提供してもよいかなども含めて必要な対応を心掛けている。	今後も継続していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			法人関係者が開催する座談会を勧めている。	今後については、事業所単位で保護者会も再開していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○		適時、電話連絡をしたりしてご本人の様子を聞いたり、場合によっては家庭に訪問することも	特に年度後半について、職員の退職時などでご迷惑をおかけすることが多かった。今後も迅速な対応に努めたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			法人が発行する会報に活動報告を記載している。ただ、頻度が少ない。	今後は個人情報に配慮しながら、HP上のFacebookなども活用していく予定。
	35	個人情報に十分注意している	○	○		事業所内で一人ひとりが取り組んだ内容を掲示し、みんなに発表できるようにした。それを他機関の方が施設利用をされた際にすぐに片付けることができるよう掲示場所を工夫した（パーティションで見え	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			コミュニケーションプログラムの中で、自分の意志を自発的に伝えるような活動に取り組んでいる。	今後も継続していきたい。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ感染の影響もあり、今年度はあまり実施できなかった。	次年度についてはコロナ感染症関連も落ち着いてくることが見込まれるため、様々な地域活動を実施していきたい。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		事業所内では作成しているが、保護者の方には見えにくい場所にマニュアル等を保管してしまっていた。	次年度はマニュアル関係は保護者も見えやすい場所に掲示し、訓練の様子等についてはfakebookで報告していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		今年度も通報訓練等を行った。また、避難経路の動線の確保の確認なども実施した。	次年度はマニュアル関係は保護者も見えやすい場所に掲示し、訓練の様子等についてはfakebookで報告していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止委員会が計画した研修に参加することに加え、特性に関連する研修等について実施している。	今後も継続していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			虐待防止に関わる職員で検討をし、身体拘束に関する方針や同意書をわかりやすい文言に整理した。	そもそも、身体拘束をしなくても良い環境づくりを心掛けていきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			そのような確認が必要なお子さんは現時点では利用されていない。	ただ、調理やお子さんが口にするものについては必ず保護者の方に確認するよう徹底している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			回覧ボックスを活用して周知している。	今後も継続していく。